



キャットミュージックカレッジ専門学校 専門課程

平成 27年度 学校関係者評価報告書

(基準日2016年3月31日)

2016年11月



学校法人 大阪創都学園

キャットミュージックカレッジ専門学校

はじめに

本校では、学校教育法及び学校教育法施行規則に則り、学校評価(自己評価・学校関係者評価)実施に向けた体制作りを行ってまいりました。そして現在、文部科学省策定の『専修学校における学校評価ガイドライン』をもとに、学内におけるPDCAサイクルの確立を目指し自己評価を行っています。平成 27年度自己評価報告書に基づき、本校に関係のある方々に幅広くご意見をお聞きするためにお集まりいただき、貴重なご意見を頂戴いたしました。ここに、その内容をご報告させていただきます。今回いただきました貴重なご意見を基に、より一層の充実した環境を目指していく所存でございます。

本校関係各位の皆様におかれましては、さらなるご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

学校法人大阪創都学園
キャットミュージックカレッジ専門学校
学校長 井原 延治

<学校関係者評価者紹介>

地域関係者

瀧川 紀征 吹田商工会議所 副会頭

教育関係者

永田 淳義 科学技術学園高等学校 通信課程大阪分室長

業界関係会社

三原 淑治 エム・アイ・プランニング株式会社 代表取締役

卒業生

高橋 国明 第6期生(1994年卒業)(株式会社白竜社取締役)

学校関係者

井原 延治 キャットミュージックカレッジ専門学校 学校長

城 将敏 学校法人大阪創都学園 事務長

<実施概要>

- ・自己評価報告書実施概要についての説明
- ・自己評価報告書の各項目について特筆すべき内容を説明
- ・評価者の方々からのご意見・質疑の応答
- ・昨年度学校関係者評価委員会において頂いたご意見等の反映状況等ご報告

キャットミュージックカレッジ専門学校 専門課程 2015年度学校関係者評価 報告書

I. 平成27年度自己評価報告書について

- ・学校長挨拶
- ・自己評価報告書において特筆すべき項目について個別にご説明
- ・前回学校関係者評価委員会におけるご意見等の反映状況のご説明

自己評価報告書において特筆すべき項目について個別にご説明

学校運営

□2-12「教育活動に関する情報公開が適切になされているか」を3から4へ 評価について説明

前年度との比較において、ホームページなどに学校行事・イベントを出来るだけ数多く、また素早く掲載するように致しました。

教育活動

□3-23「資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか」を3から4へ 評価について説明

学内で行う検定試験等に対しては、実施時期に応じたカリキュラムへの組み込み、放課後に対策授業の実施を行っています。また、試験難度の変化に応じてカリキュラム・対策授業の見直しを繰り返し行ってきました。求められるレベルは上がっていますが、合格率を維持できるよう努力しています。

教育環境

□6-41「施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう設備されているか」を3から4へ 評価について説明

設備投資はなかなか大変なものでありますが、今期は15年ぶりにホール用音響スピーカーを新調致しました。これにより現場との差違が縮まり、教育効果が向上しました。しかし、これは音響系に関してのみであり、他分野にも同様の設備更新希望が多数ありますので、順次入れ替えを行っていく予定です。

社会貢献・地域貢献

□10-57「学生のボランティア活動を奨励、支援しているか」を3から4へ 評価の説明

吹田市、江坂地域でのイベント活動や、関西地域での大型フェスへ、学生がボランティアスタッフとして参加してきました。夏休み時期にはかなりの量を実施していますので、今後参加件数等は精査するべき点もありますが、学生に負担の少ない範囲で継続していきたいと考えています。

Ⅱ. 報告書確認後、ご意見ご要望等、意見交換

ご質問 その他ご意見

検定対策について

問: 検定対策とありますがどんな検定を行っているのでしょうか？

→免許制を伴う業界ではありませんので、技術系専攻では厚労省認定の国家検定、及び各業界団体認定の検定試験を行っています。受験する専攻毎にカリキュラム、及び放課後の対策授業を行い、合格率アップに努めています。

問: 参加者は多いのでしょうか？

→音響エンジニア専攻を例にしますと、有志参加である舞台機構調整技能士2級の志願者は、必修である3級合格者の約3分の1になります。

ご意見: 資格を持つということは良いことだと思います。資格が取れるという事柄は、保護者にとっては子供を預ける安心感のひとつです。

→ありがとうございます。ただ、これらは技術系が対象で、演奏系では僅かなのが実情です。

前回、学校関係者評価委員会においていただいたご意見等の反映状況

問: 専門分野の勉強は理解できるが、一般教養的なものはどうなっていますか？最低限の社会的教養を持たせて欲しい。

(昨年度回答)

→専攻毎に担任を配置し授業を行う中で補っています。またキャリア教育の一環でマナー講座等も実施しています。

→昨今話題となっている「非認知能力」は、本来5歳までの教育が重要であるといいますが、これは学校が取り組むべき問題ではないかと考えています。忍耐力や計画性の欠如が著しく、特に個人事情を優先させる言動で約束を簡単に反故にするケースが見受けられます。これは社会的行動に程遠く、「認知能力」ばかりを優先した教育を受けた結果だと思います。以前はそのような振る舞いに対して強固な指導もありましたが、今はそういうわけにもいきません。社会人教育として、この問題に取り組んでいきたいと考えています。